



THE JAPANESE SCHOOL in LONDON

ロンドン日本人学校だより 11

◆学校教育目標

自ら学び、心豊かにたくましく
国際社会を生きぬく児童生徒の育成

◆合い言葉： 自立・貢献・気品

令和7年（2025年）

11月4日発行 文責：校長 信田 清志

運動会や文化祭を終え、「読書の秋」ともいわれるしっとりとした季節になりました。その季節に相応しい来客がアメリカからお越しになりましたので皆さんにも共有させていただきます。

10月29日、ロンドン日本人学校に慶應義塾大学文学部名誉教授の異孝之（たつみ・たかゆき）氏が訪問されました。異氏といえば、言わずと知れたアメリカ文学の第一人者であり、日本のポストモダン文学研究を牽引してきた存在です。トマス・ピンチオンやウィリアム・ギブソン、村上春樹といった作家の作品を通して、戦後日本とアメリカの文化がどのように響き合ってきたのかを読み解いてもらいました。その緻密な批評と独自の視点は、国内外の文学研究者から高く評価されています。

■ 大学教授から学院長としての日々

- ❖ 慶應義塾大学を定年退職後、異氏は「慶應義塾ニューヨーク学院」の学院長として、アメリカ・ニューヨーク近郊で生徒たちと寝食を共にされています。同校は、日本の教育課程を基盤としながら、現地の文化や英語教育を融合させたユニークな学校です。寮生活を送る生徒たちと日々交流し、異国の地で学ぶ若者の姿を間近に見つめているといいます。

■ お互いが支えあうコミュニティに学ぶ

- ❖ 異氏は、現在のアメリカの社会状況についても率直に語られました。パンデミックを経て人々の価値観が変化し、多様性の尊重が進む一方で、社会の分断や孤立が深まっている現実があるといいます。異氏は、留学時代だけではなく、研究者としてアメリカで日常生活を過ごすことはあったのですが、今回は学院長として長期に生活をするうちにこれまで気にならなかったことに気づいたといいます。それは、日系社会の人々が互いに助け合い、支え合う精神とその心地よさでした。そして、その姿勢に深い感銘を受けたとのことでした。「困ったときはお互いさま。小さな思いやりの積み重ねが、遠い異国の地でも心の拠り所となる」—異氏は、そうした温かな人間関係の中に日本的な“共生”の知恵を見出しておられました。
- ❖ このお話を伺いながら、私たちは自然とロンドン日本人学校の姿を思い浮かべました。本校もまた、保護者の方々をはじめ、地域の日本人会、卒業生、そして多くの関係者の支えの上に成り立っています。異国での子育てや教育には、時に戸惑いや不安もありますが、「同じ空の下で支え合う共同体」としての絆が、児童生徒たちの成長を力強く支えています。異氏が語られた「助け合いの心」は、まさにこのロンドンの地でも息づいています。文化や言葉の違いを超えて、互いの存在を尊重し、励まし合う姿勢こそ、グローバルな時代に必要な教育の土台なのかもしれません。

■ 二つの伝えたい大切なこと

- ❖ 最後に、異氏にこうお尋ねしました。「長年、研究者としてご活躍されてきた異先生が、ロンドン日本人学校の児童生徒たちや保護者にメッセージを送るなら、どのようなことをお話しされますか？」しばらく静かに考えたあと、穏やかな口調で、しかしはっきりとこうおっしゃいました。

自分の目で確かめること。それが大切です。

そして、少し間をおいて続けられました。「日本の社会では、『みんながそうしているから』という同調圧力があるかもしれません。しかし、本当にそうなのか、自分の目で確かめてほしい。自分の目で見て、自分の頭で考える力を持ってほしいのです。」その言葉には、研究者としての知的誠実さと、教育者としての温かな願いが込められていました。私たちはつい、周囲の評価や常識に安心を求めがちです。しかし、海外という「異なる視点」に身を置くことで、自分の中の固定観念を疑い、世界の多様さに気づくことができます。また

好きなことをあきらめる社会ではいけません。

ともおっしゃっていました。異氏は、若い頃からアメリカ文学だけでなく、SFや漫画、ポピュラー音楽など、当時“周縁的”と見なされていた文化にも関心を寄せてきました。かつては「サブカルチャー」と呼ばれ、軽視されていた領域が、いまや世界の共通言語として広く受け入れられています。日本のアニメや漫画、ゲーム文化が国境を越えて多くの人に愛されているのは、その象徴です。確かに「好きなことをあきらめざるをえない社会」では、創造力が育ちません。児童生徒たちが自分の興味を追求し、失敗を恐れずに挑戦できる環境こそが、未来を切り拓く力となる。その言葉は、学びの現場に携わる私たちにも深い示唆を与えてくれました。ロンドンの空の下で、一人ひとりの児童生徒が自分の目で世界を見つめ、自分の言葉で未来を語るように支えていくことが、ロンドン日本人学校に関わるすべての大人の使命だと胸に刻んだ時間でした。



Keio Academy of New York

Headmaster's Voice

<https://www.keio.edu/about-us/headmasters-voice>